

木製品モデルの試作

見尾貞治・中神照太・中村睦男

1. はじめに

未利用材や端材の活用を目的として、新しいデザインや機能を備えた調度品などの開発・試作を検討している。

2. 試作製品

1) ペン皿 (写真1)

建築用アカマツ材の端材を利用してペン皿を試作した。切削にはルータを使用した。針葉樹材は早材と晩材の硬さの差が大きく、ルータ加工には適しない材料である。切削が晩材から早材へ移るとき、軟らかい早材の繊維が掻きむしられたようになる。アカマツ材の場合、樹脂分が浸潤した部分、いわゆる「コエマツ」と呼ばれる部分は粘りがあり、早晩材の硬さの差が小さい。ここでは、端材の中から選び出したコエマツあるいはコエマツに近い部分を利用した。このため、比較的スムーズな切削ができた。また、樹脂分が浸潤していることから、濃い赤茶色の材色に加えて、しっとりとした美しい木肌が得られた。

2) 小 盆 (写真2)

チップ用材として伐り出されていた小径のブナ材を利用して小盆を試作した。切削には木工せん盤を使用した。小径のブナ材は辺材が大半を占め、伐木後の変色や腐朽を生じやすい。材質的にもバラツキが大きく、寸法の変化も大きい。ここでは、天然乾燥により気乾状態に達したものを切削した。切削性は良く、光沢のある淡色の材面が挽き出された。

3) 簡易組立式デスク (写真3)

針葉樹小径木の活用のために製造されている台形集成材を利用して簡易組立式デスクを作製した。これは、同じ形状の箱を対にして脚とし、その上に任意の大きさの天板を渡したものである。天板は作業や部屋の大きさに応じて必要な大きさのものを用意する。この天板の大きさに応じて、脚部の間隔は変える。さらに、一人でも手軽に持ち運びでき、任意の場所に設置することができる。

4) 美しい森林づくりの会会員証 (写真4)

地域で推し進めている「美しい森林づくり」に参加している会員に金属製の会員証が配布されている。端材の活用と木片を使った遊び心の啓蒙を兼ねて、この会員証を木片に組み込んでみた。堅苦しくなりがちな“会員証”を装飾的なものとすることで、会員の心は和み、活動に対する遊び心も増進するのでは？

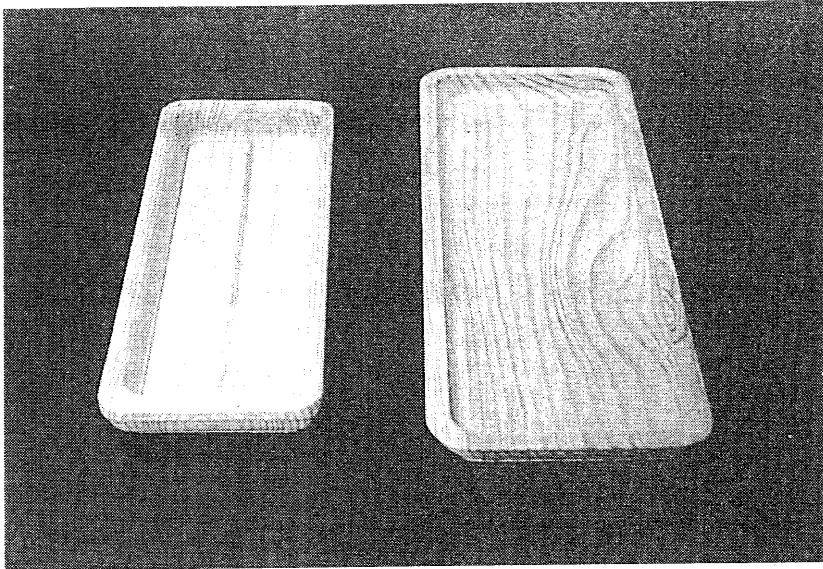


写真1 ペン皿

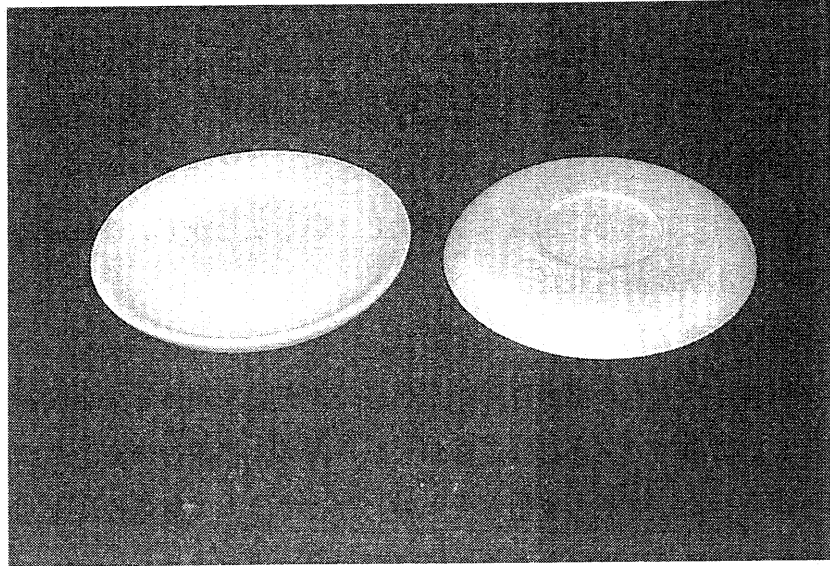


写真2 小盆

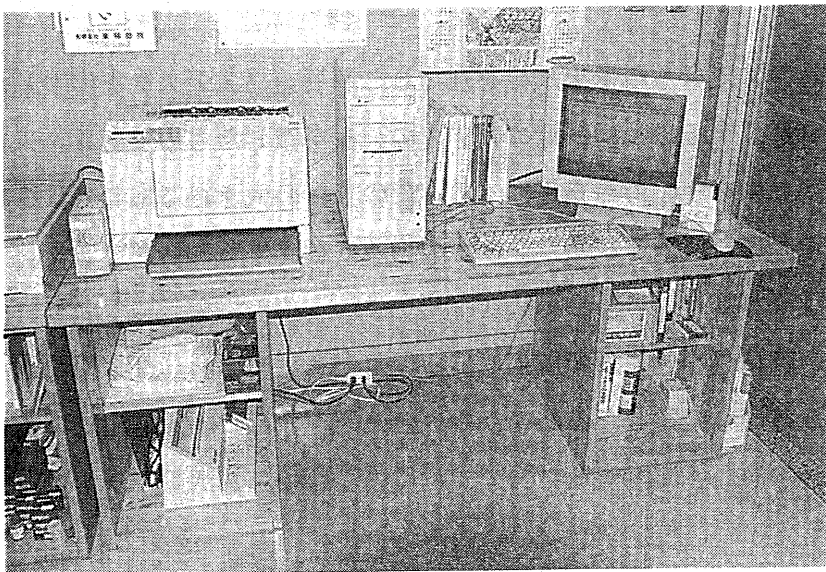


写真3 簡易組立式デスク

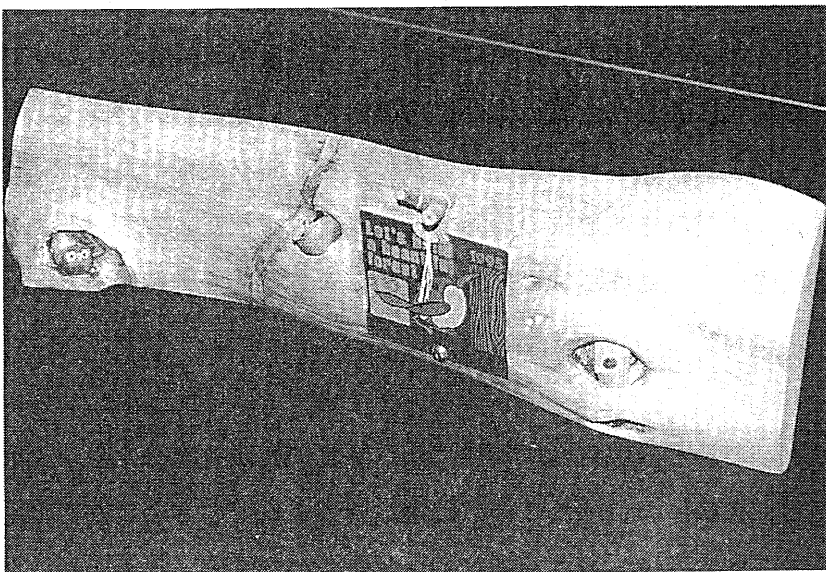
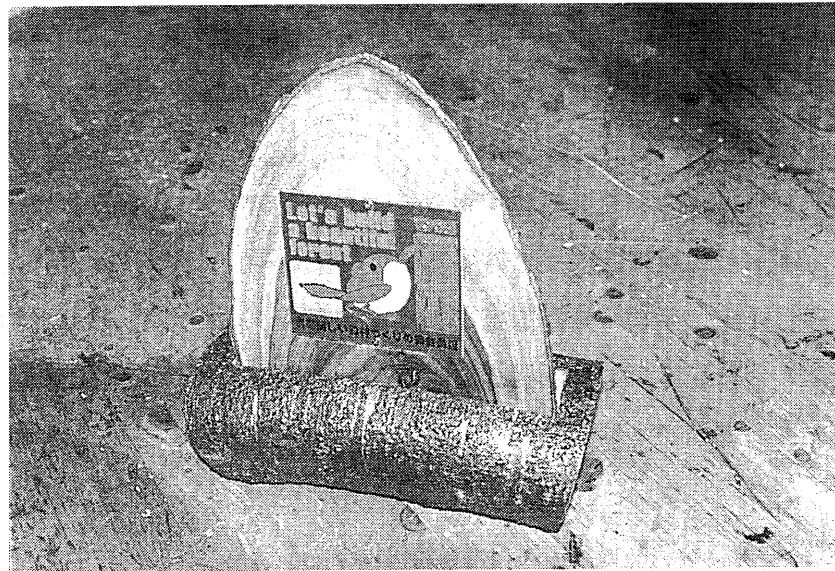
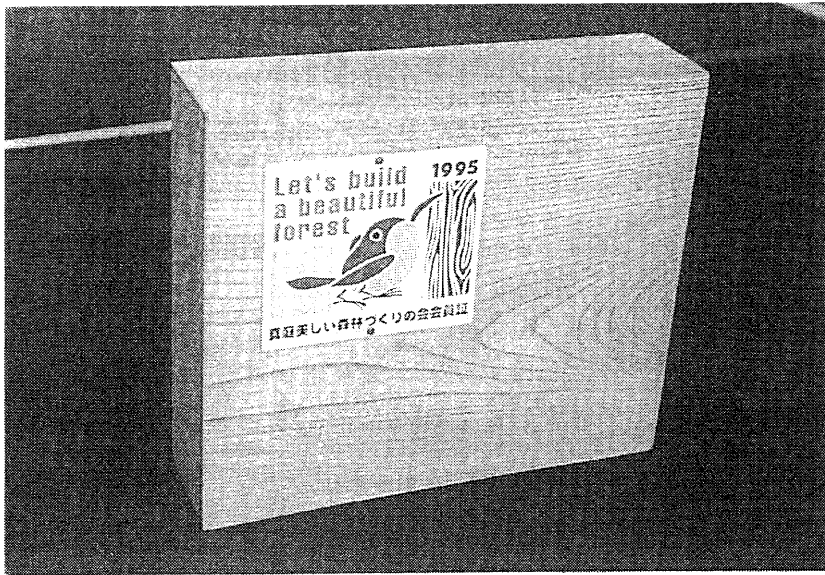


写真4 美しい森林づくりの会会員証